

駿河ほねほね団活動報告

高山達子



4月29日サンマの頭骨標本作製の様子

最近の活動としては、ハクビシン、バンドウイルカの骨格標本作製とコウベモグラ等の骨格標本の整理を行いました。

4月22日、初めてほねほね団の活動に来た方が、来る途中でハクビシンの斃死体を見つけて持ってきてくれました。ほねほね初日に斃死体に遭遇するとは、骨運が高くてびっくりです。まずは恒例のダニ探しをしたのですが、残念ながらマダニすら付いていなかったようです。ハクビシンにはマダニが付いている事が少ないそうで、他の哺乳類と何が違うのか、とても不思議です。「他の中型哺乳類に比べ、樹上空間を利用することが多いため、地表に多いマダニには寄生の機会が少ないのではと考えている」と高田さんが教えてくれました。「触れる毛皮標本」のために、剥いだ皮をきれいなめして4分割して干します。これは「シカの触れる毛皮標本」と一緒にミドルヤードで展示されます。4月22日と5月7日との2日間で、ハクビシンの骨格標本は完成し、今乾燥中です。交通事故に遭った個体だった為、頭骨が損傷していたのが残念でした。

和歌山県東牟婁郡太地町で捕獲され、長年沼津市の三津シーパラダイスで活躍していたバンドウイルカの死亡個体を頂いてきました。8分割くらいになっているのを、時間を見つけて、少しずつ綺麗に肉をとりハイターで溶かし、骨格標本を作っていきます。この個体は、頭骨と第1・2頸椎が癒合していました。頸椎同士が癒合していることはよくあるそうですが、頭骨とも癒合していることは珍しいそうです。6月

にはミュージアムのトピックス展で、公開される予定です。

以上の作業とは別に、1つ1つ名前を付けて袋詰めされているコウベモグラの骨を、標本箱に納める作業を行いました。細かい骨を虫ピンで留めていくという根気のいる作業です。なかなかまっすぐにならなかつたり、何度もやり直して、仕上がった時にはほっとしたと同時にとても感動したようです。

ほねほね活動日の他に、ミュージアムのイベントとして、4月29日サンマの頭骨標本を20名の来館者（事前に申し込みを受け付けました）と一緒に作製しました。11時に講堂に集合して、説明。その後屋外に移動しました。サンマの頭とハサミ、ピンセットを渡され解剖スタート。肉をある程度取ったら、ハイターに漬けて、きれいにしていきます。ここで、ハイターに漬けすぎるとバラバラ事件になってしまいます。お昼時間の間にワイドハイターに漬けて油をとります。午後もさらに、肉をとり、発泡スチロールに楊枝で形を整えながら、留めていきます。この状態で家に持ち帰り乾燥したら骨格標本の出来上がりです。ちょっと溶かしすぎてバラバラになりかけても大丈夫、形を整えながらボンドを使って骨をつないでいきます。中にはお父さんの方が夢中になって、子供から取り上げて熱心に作製している人や、他の人が仕上げた後、もっと綺麗にと丁寧に仕上げる人がいたりそれぞれ楽しんで頂けました。みんな大事そうに標本を持って帰る姿を見ると嬉しくなります。このイベントは夏休みにも行う予定です。

この3ヶ月の間に、新しい団員がまた増えました。今までは月1回の活動でなかなか思うように作業が進みませんでした。今回は5・6月の2回の活動でハクビシンを丸々骨にする事が出来ました。さらにバンドウイルカ・コウベモグラと3種の骨格標本作りを並行して行う事が出来ました。大勢で、分担して作業することで、効率よく骨格標本が出来上がります。今後も、冷凍庫で出番を待っている標本をみんなで骨にしていきたいと思います。